

農人伝

女性が活躍するサボテン専科経営

野末 信子 ⑩

静岡・浜松市



「1日1日を大事に過ごしてほしい」と話す信子さん

うちの会社には生かし、私たちが広げた遊び場を片付けてくれ、若い世代にもつないでくれました。その意味でも法人化して本当に良かった(笑)。

現在は、ネット・店舗販売、寄せ植え、生産、出荷の4部門に分け、各部門に責任者を置き、経営管理能力の向上を図るためOJT(オン・ザ・

食卓で「経営戦略会議」

2018年(平成30)に、出荷場兼事務所を新設し、社長職を息子に譲りました。夫は農場長、息子の妻の芳弥さんは直営店スタッフ&経理事務。わが家の食卓は、「ああでもない、こうでもない」とまるで「経営戦略会議」です。

女性も働きやすい雇用体制を

元企業人のパート社員から雇用ノウハウ学ぶ

雇用を始めたのは、「野末サボテン」を立ち上げた頃です。でも、当時はまだ5人程度で、私たちも雇用のノウハウなどなく、全くのシロウトでした。

なので、法人化して雇用を拡大した当初にうちに来てくれた方たちは、本当に大変だったと思いますよ。申し訳ない(笑)。

知恵出し合い体制作り

ありがたかったのは、ホンダやヤマハなど近隣の大手企業を退職してパートで来てくださった方たちが、僕の会社はこうし

ていた「うちはこうだった」と知恵を出し合い、会社の体制を整理整頓してくれたんです。それまで私たち夫婦は「ああしたい、こうしたい」と夢だけで突っ走り、「おやじたちは好き勝手に仕事を広げるばかりで、とっ散らかしてきたけど、死ぬま

では整理してよね」と子どもたちに言われていたんです。パートの方たちが企業経験をきくと思うんですよ。

ジョブ・トレーニングも導入しています。

部門責任者は、全員女性です。

女性が重要な戦力なので、育児・産休制度を充実し、希望にに応じて始業・終業時間を決められる体制にしました。女性と男性って、脳の構造がちがうのか、発想もちがいますよね。お互いが協力すれば、すごいことができ

弊社は、16年に「農業の未来をつくる女性活躍推進経営体100選」に選ばれ、18年には「女性活躍部門」で内閣総理大臣賞をいただきました。

農業で頑張っている若い女性たちに伝えたいのは、人間の一生でできることは限られているし、あっという間に60代になっちゃう。だから「今」から逃げず、1日1日を大事に過ごしてほしい。心からそう思います。

構成 神田みどり

おわり

◇次回から島根県の糸賀盛人さん